（様式５）

令和７年度　日本大学自主創造プロジェクト
日大生のやってみたいを実現するプロジェクト成果報告書

２０２５００８

秋田県特産品でパンを作り商品化、横手かまくらで販売してみんなの心に明かり灯したい

プロジェクトの概要

私たちは数年以上、横手かまくら祭りに参加して市民ボランティア団体と一緒にミニかまくらを作り、ろうそくに点灯する活動をしてきた。今年度はこれまでの活動をさらに発展させ、農業高校および地元製パン会社と連携して商品化・販売して祭りをさらに盛り上げ、地元の活性化と持続可能なまちづくり（SDGs）に貢献するプロジェクトである。

プロジェクトの結果・成果

私たちのプロジェクトは、大きく３つに分けられる。「秋田県特産品でパンを作り商品化」「横手かまくらで販売」「かまくらを作ってみんなの心に明かりを灯す」活動である。

まず初めに、秋田県特産品を使用した商品化について説明する。最初は秋田県立大曲農業高校で作った果物を使用したパン作りを考えていたが、商品化には十分な量が収穫できないことが分かり断念した。話し合いを進める中で、横手かまくらをイメージしたシュークリーム開発という案に固まり、味や生地にこだわりながら Zoom で話し合いを進めた。８月後半に工学部生５人が大曲農業高校に行き、試食しながら商品の改善やパッケージについて話し合いを行った。改良に向けた打ち合わせを重ねながら 12 月に商品化（商品名　秋田のかまくらシュー）が決まり、２月に地元のスーパーなどで販売を開始した。商品宣伝のため、品川にある秋田の物産館で手売り販売を行った。約 50 個仕入れてもらい販売、県出身や工学部の卒業生に多く来ていただき、30 分あまりで完売した。また、横手市長に完成報告を行い、地元新聞を始め大曲農業高校のホームページや横手市観光協会のインスタグラムにも掲載していただいた。

次に、横手かまくらでの販売について説明する。かまくら当日にシュークリームをテント販売し、２日間で計 200 個を１時間あまりで完売することができた。販売を通じ、地元の方や外国人旅行客と交流できたことは楽しかった。秋田県内での反響は大きく、地元製パン株式会社の作る高校や大学とのコラボ商品の中では過去最高の売上になったと聞いている。県外大学生と地元高校生の開発という意外性と、レアチーズ風味の甘すぎない点が良かったようだ。

最後にかまくら作りについて説明する。今年は工学部生 12 名、国際関係学部生２名で参加し、市民ボランティアと一緒にミニかまくら約 2000 個を作成した。最終日には、ミニかまくらにキャンドルを置き、火を灯す作業を行った。鹿児島出身の国際関係学部生から「ここ数年で一番ワクワクした瞬間であり、新たな人の発見もあり、私にとって有意義でしかない時間であった」というメールをいただき、参加学生の思いが全て表れているように感じた。今回の活動は不足する活動資金を校友企業から寄付いただいただけでなく、かまくら作りにも参加いただいた。以上の交流を通じて、みんなの心に明かりを灯すことができた。

活動写真





